

電気生理学サービス

お客様のニーズに対応する当社のソリューション

イオンチャネルは、膜タンパク質の標的としてはGPCRに次いで2番目に大きなクラスであり、ChEMBLデータベースに登録されている低分子医薬品の約20%がイオンチャネルを標的としています。当社のサイエンティストは、ライフサイエンスのあらゆる分野で実施された70以上のイオンチャネル創薬プログラムの経験を活かし、お客様のイオンチャネル創薬プログラムをサポートします。

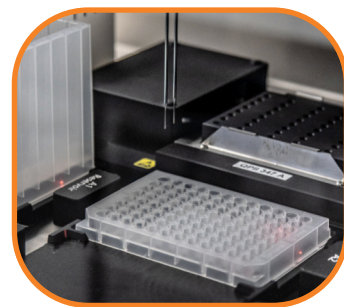
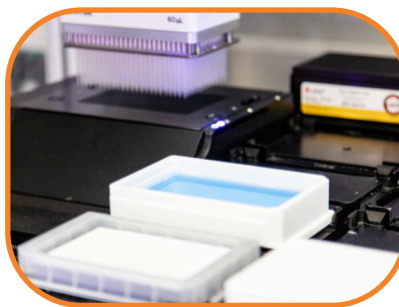
カスタマイズされた細胞株工学

イオンチャネル発現に最適化された複合体の生成

機能クローンの選択

生物物理学および薬理的検証

電気生理学的手法（手動および自動パッチクランプ）による最先端のイオンチャネル特性評価



ハイスループットスクリーニング

AXX^{DIV4.0} ライブラリの325,000の化合物へのアクセス

大規模なスクリーニングキャンペーン

電気生理学と代用技術の間の強い相関関係

SyncroPatch 384i (Nanion)

ミディアムスループットスクリーニング

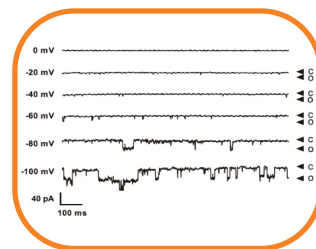
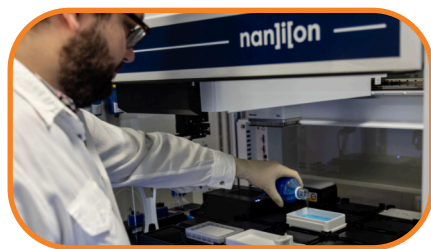
ヒット確認、SARキャンペーン、hit-to-lead研究

選択性と特異性アッセイ

化合物プロファイリング

心臓安全性イオンチャネルパネル

QPatch II 48X, QPatch 16X (Sophion)



作用機序研究

手動パッチクランプ

分子生物学設備（シングルポイント突然変異、ノックイン、ノックアウトなど）

イノベーション

光遺伝学

オルガネラ電気生理学（ミトコンドリア、リソソーム、核など）

iPS由来細胞を用いた電気生理学的研究

